

お わ り に

自然や環境に関する様々な課題が顕在化し、その問題解決のため、さらには健全な環境創造のために、生涯学習、環境学習が重要視されています。自然史系の博物館のみならず多くの科学館や博物館がどのように対応できるかが問われている、緊急を要する重要な課題です。

兵庫県立人と自然の博物館では「人と自然の博物館の新展開」のテーマのもとで効率化を意図した運営（マネジメント）体制の再編、多様なニーズに対応できるセミナーの充実、ひとはくキャラバンに代表されるアウトリーチ型の活動、研究部の再編等を進めてきました。詳細は本特集に記載されている通りです。

この様な「人と自然の博物館の新展開」が可能になったのは、多くの館外の方からのご支援、ご協力が頂けたからです。博物館運営でややもすると欠落していた経営、マーケティング、集客、サービス、それを支える組織、さらにはボランティア等に関わる外部の専門家、実践者の方々から多くの御示唆を頂くことができました。館職員が講師の話聞き、講師を囲んで夜遅くまで議論していた様子を鮮明に覚えています。さらに、このプロセスで各職員が変化し、成長していく状況がありました。

新展開がはじまって2年、試行期間を入れて3年ですが、ようやくここまでたどり着いた、あるいはまだまだこれからが本番という感があります。今回の紀要は従来と異なり、学術的な論文ではありません。人と自然の博物館での新展開の各プロセス、即ちプランニング、試行、そして実践について、それらに深く関係した職員が記述しています。本特集が多くの博物館や社会教育施設の皆様に参考になれば幸いです。

人と自然の博物館この様な試みができたのは、外部の方々の多様な専門的見地からの御協力、教育委員会をはじめ事務系職員の絶大な御協力、さらにはNPO法人人と自然の会の皆様との協働があったからこそとお礼申し上げます。

人と自然の博物館 副館長 中瀬 勲